



人生の夢



○「夢」は心の奥底にある

「あなたの夢は何ですか」とよく聞かれます。入試や就職試験でもよくある質問です。「夢があってこそ頑張れるのだから夢を持って」ともよく言われます。

確かに、絶対に実現させたい夢があればどんなことでも頑張れるでしょうが、夢を探し続けて、何もしないうちに心が疲れてしまうのでは本末転倒です。

ましてや「夢」＝「職業」である必要は全くありません。実際、やりたかったことを仕事にしている人は世の中にそう多くはないはずで、特別やりたい仕事がないかたり、やりたかった仕事ができないとしても、経済的に自立し食べてくためには働くしかないからです。ただし、働いているうちに、心の奥底から思わぬ「夢」が自然と現れ、その実現のために働き続けるという人は少なくないと思います。



○朝ドラ「舞いあがれ！」の舞ちゃん

先月末に最終回を迎えた朝ドラ「舞いあがれ！」を観た人はいるでしょうか。

主人公の夢はとりとめもなく変化しているように見え、一つ一つを全うする中で、心の奥底の一番の夢により深く関わるための力と人脈を蓄えていくというストーリーでした。

「夢」というものは無理やり見つけるものではなく、やるべきこと、やりたいことの積み重ねの先にあるものではないでしょうか。何かを一生懸命やるうちに、だんだんはっきりとした形になって自分の目の前に現れるものなのだと思います。やるべきことができたらかにかく一生懸命にやる、ということが大事です。そういう意味で、とても腑に落ちるストーリーだったので、あらすじを紹介します。



舞ちゃんは幼い頃、自分に自信がなく意思表示のできない病弱な子でしたが、「バラモン風」を揚げたり、飛行機に乗ったりしたことがきっかけで飛行機好きになりました。

漠然と飛行機に憧れて成長し、大学では工学部に進みます。そこで人力飛行機サークルに入部し、人力飛行機を作る活動をしていましたが、サークルの事情で急遽パイロットを任されることとなり、作ることも飛ぶことにより強い憧れをもつようになります。

その後、大学を中退して航空大学校に入りパイロットの資格を取りますが、社会情勢の悪化により、就職が内定した航空会社への入社が延期になります。さらに父親が急死し、実家の工場が倒産の危機に陥ります。

そこで、パイロットを諦め、工場の仕事に専念する決断をします。これを見て「せっかくの夢をあきらめた」と感じる人はいるかもしれませんが、実家の工場再建も新たに生まれた第3の「切実な夢」なのだ、と私は感じました。そして、無事に工場を再建した後は、町工場全体の抱える様々な問題を解決するという新たな夢の実現のために、実家の工場の仕事を離れ、工場同士の技術をつなぐ新会社を設立します。

やがて、ドローン型の空飛ぶ車を開発するベンチャー企業に出会い、その開発に深く関わることになり、空飛ぶ車のパイロットとして初フライトをしてドラマは終わります。

はっきりとした夢はなくても、一生懸命生きていれば、その積み重ねが自分を形作り、幸せな未来を呼び込めるものだと思います。「進路通信」では、皆さん一人一人が納得して前に進めるよう、様々な角度で情報発信をしていきます。進路についての質問、要望等は、担当の柳まで気軽に申し出てください。1年間よろしくお祈りします。